

# 平成 30 年度 第 9 回 周南市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成 31 年 3 月 1 8 日 ( 月 ) 開 会 : 1 3 時 3 0 分  
閉 会 : 1 4 時 5 0 分

2 場 所 周南市岐山通 1 丁目 1 番地  
周南市役所 庁議室

3 出席委員 木村健一郎市長 中馬好行教育長 池永博委員 松田敬子委員  
片山研治委員 大野泰生委員

4 事務局 教育部長 教育部次長

5 出席者 企画課長 生涯学習課長 学校教育課長 人権教育課長  
学校給食課長 中央図書館長

6 書 記 教育政策課 ( 課長補佐、担当係長、主査 )

7 協議事項

順位	件 名
1	平成 31 年度教育委員会の重点施策について
2	『地域と“共に”ある学校』づくりの取組について

## ●事務局

ただ今から、「第 9 回 ( 平成 30 年度第 2 回 ) 周南市総合教育会議」を開会いたします。

それでは、はじめに、会議の主催者であります市長から、開会にあたっての挨拶をお願いいたします。

## ●市長

皆さん、こんにちは。市長の木村健一郎でございます。

本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

皆さまには、常日頃から、周南市教育の充実、発展のために、お力添えを賜っておりますことに、深く感謝いたします。

昨年は、完成に際しまして、皆さまにご尽力いただきました「徳山駅前賑わい交流施設」「徳山駅前図書館」、また市役所本庁舎が次々と生まれ変わり、まちが大きく動き始めました。

私が市長に就任して以来<sup>ま</sup>蒔いてきた種が芽吹き、まちが新たな一步を踏み出しました。この動きをより確かなものとし、まちの活力、市民の皆さまの幸せと喜びにつなげてまいりたいと考えております。

先般、平成 28 年 7 月に、当時県立高等学校 2 年生の男子生徒が、列車にはねられて死亡した案件について、「山口県いじめ調査検証委員会」からの調査報告書の概要版が公表され、大きな反響がありました。

私もこの報告書の概要版を読ませていただきましたが、未来ある若者の命が失われたことは、痛惜の念を禁じ得ないところであります。

御冥福をお祈りするとともに、この事案と同様な悲劇を決して起こさない

ためにも、これを学校や家庭だけの問題として捉えず、地域も一体となって子供を育てる、「地域の子は、地域で育てる」という視点に立って、しっかりと対策をしていく必要があると考えております。

さて、本日の会議でございますが、まずは、来年度における教育行政の重点施策の取組につきまして説明させていただいた後、全国に先駆けて平成24年度からスタートしております、コミュニティ・スクールを核とした「地域と“共に”ある学校」づくりの取組について、皆様のご意見をいただきたいと考えております。

本市では、コミュニティ・スクールの取組により、学校と地域の横のつながり、小学校と中学校という縦のつながりをつむぎあわせることで、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって、9年間の義務教育を通して子どもたちの力を育む「地域と“共に”ある学校」づくりをめざしております。

その取組の中でも、『～地域を担う人材育成～』について、事例を紹介し、課題や今後の展望などを報告いたします。

もちろん地域でもご活躍されている委員の皆さまにおかれましても、一緒に活動されたり、見守ってもらったりと様々な場面でご参画いただいているわけですが、その経験も踏まえて、もう少しこういうところに力をいれたらどうだろうか、こういった視点は大切と考えるがどうだろうかなど、皆様のご意見を頂戴し、施策の展開に活かしてまいりたいと考えておりますので、本日も、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ●事務局

会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきたいと思っております。

資料ですが、表紙と次第が各1部ずつ、議題1となりますが、重点施策に対しましての資料A4横で左肩綴じのもの1部、議題2となりますが、コミュニティ・スクールの取組等に関しましての製本綴じしてあります資料をご用意いたしております。

資料の漏れ等はないでしょうか。

それでは、本日の会議でございますけれど、周南市総合教育会議設置要綱の規定によりまして、議事の進行は議長である市長が行うということになっておりますので、進行をお願いできたらと思っております。

市長よろしくお願いいたします。

1	平成31年度教育委員会の重点施策について
---	----------------------

#### ●市長

それでは、早速、次第に沿って、進めさせていただきます。

では(1)番、「平成31年度教育委員会の重点施策について」です。

まず、事務局からの説明をお願いいたします。

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| ① 学校施設等長寿命化計画策定事業      | 【教育政策課】 |
| ② 小・中学校改修事業            | 【教育政策課】 |
| ③ 小学校普通教室空調設備整備事業      | 【教育政策課】 |
| ④ 児玉源太郎資料調査事業          | 【生涯学習課】 |
| ⑤ 学校業務支援員配置事業          | 【学校教育課】 |
| ⑥ (仮称)西部地区学校給食センター建設事業 | 【学校給食課】 |

## ●事務局

それでは、協議項目1番の「平成31年度教育委員会の重点施策」についてご説明いたします。

本日の会議資料「平成31年度周南市教育委員会の重点施策について」をお願いします。

周南市教育委員会の重点施策として掲げております19の事業に関しましては、いずれも「教育大綱」の基本理念を具現化するものとして、新たな取組を開始するもの、また、効果的で効率的な教育行政をさらに推進してまいりますのでございます。

本日は時間の関係上、主に平成31年度の施政方針において示されました事業等から、「学校施設等長寿命化計画策定事業」「小・中学校改修事業」「小学校普通教室空調設備整備事業」「児玉源太郎資料調査事業」「学校業務支援員配置事業」「(仮称)西部地区学校給食センター建設事業」の6事業につきまして、それぞれの所管課長より説明させていただき、その他の事業につきましては、失礼ながら書面での説明とさせていただきます。

それでは、まず、教育政策課より説明させていただきます。

まず、事業番号1「学校施設等長寿命化計画策定事業」でございます。

学校施設は、児童・生徒が集い、一日の大半を過ごす中で、いきいきと学び活動する場でありますことから、教育委員会といたしましては、安心安全で快適な教育環境を確保するため、大規模改修等による老朽化対策を実施し、教育環境の維持充実に努めているところでございます。

今日までの老朽化対策は、外壁や防水シートなど、経年劣化に伴い改修等が必要となった場合に、その都度、適宜適切に対応するといった、いわゆる「事後保全型」での改修が中心となっておりますが、本市の学校施設の多くは、昭和40年代後半から昭和60年代前半に集中して建設されており、築後30年を経過している建物は70%を超える現状にあります。

こうした老朽化の進行により、今後大規模改修等がますます増加することが想定され、改修に要する経費の増加や年度間での偏りが懸念される状況となっております。

このため、今後は、長期的な視点から維持管理等に係るトータルコストの縮減及び財政支出の平準化を図るため、施設の劣化が軽微である段階で必要

な措置を行う、いわゆる「予防保全型」による改善に転換する必要がある、そのためには、施設の構造躯体や屋根や屋上、外壁や内部仕上げなど、棟ごとの劣化状況を明確にしたうえで改修計画を定める必要があります。

こうしたことから、このたび、学校施設等長寿命化計画を策定し、建物の延命化を図るとともに、施設のメンテナンスサイクルの構築につなげてまいります。

次に事業番号2「小・中学校改修事業」でございます。

安心安全で快適な教育環境の充実を図るため、平成31年度も引き続き、国の支援を最大限活用して、施設の老朽化に対応する大規模改修等を計画的に実施いたします。

具体的に、小学校におきましては、久米小学校校舍増築工事をはじめ、勝間小学校水道接続工事、福川小学校プールろ過機改修工事、須磨小学校屋内運動場防水改修工事を実施するとともに、今宿小学校外壁改修工事と戸田、岐山、福川南、三丘の4つの小学校のトイレ改修工事については、国の補正予算を活用し、平成30年度繰越事業として実施することとしております。

中学校につきましては、福川中学校屋上防水改修工事と須々万中学校屋内運動場の照明改修工事を実施することとしております。

また、同様に、小学校、中学校それぞれに存在する危険ブロック塀につきましても、国の補正予算を活用し、平成30年度繰越事業として、平成31年度末までの2カ年において着実に改善してまいります。

次に、事業番号3「小学校普通教室空調設備整備事業」でございます。

本事業は、児童が学習に集中できる教育環境を整えるため、平成32年度を目途に、整備済みの八代小学校と鼓南小学校を除く全小学校の普通教室に空調設備を整備するものでございます。

整備にあたっては、まずは、整備期間中における児童の教育環境の確保を最優先に、一括して、かつ、早期に導入することを基本方針とし、現在、鋭意、所要の事務を進めております。

平成31年度は、小学校普通教室空調設備整備支援等業務を行うこととしており、これは、空調設備を一括してかつ早期導入を可能とする整備手法であるPFI事業を活用するために必要な業務で、具体的には、「従来方式での施工とPFI事業での一括整備手法とを比較し、コスト面も含めた有益性や妥当性を検証するとともに、民間事業者の参加意欲等の把握を目的とした「PFI事業導入可能性調査」と事業者の募集から契約締結までの事務手続きの業務に対する支援であります「アドバイザー業務」でございます。

今後でございますが、本業務を進める中で、平成32年度の夏休みを最大限活用して整備することとしており、引き続き、所期の基本方針の具現化に向けて着実に取り組んでまいります。

なお、参考としまして、中学校普通教室への空調設備の整備でございますが、ご承知のとおり、本年度5校において整備を完了したところでございま

す。残る 9 校、74 教室への整備につきましては、平成 30 年度の繰越事業としまして、平成 31 年度の夏休みを最大限活用して整備を実施することとしておりまして、これをもって中学校への整備は完了いたします。

生涯学習課から、事業番号 4「児玉源太郎資料調査事業」についてご説明いたします。

2 ページをご覧ください。

この事業は、平成 29 年度から 3 か年の間、本市の教育や文化の向上に資することを目的として、郷土の先人である児玉源太郎について、資料調査を行うものです。

児玉源太郎は、徳山藩士として生まれ、陸軍軍人、台湾総督として知られるだけでなく、近年では政治家としても高く評価されています。

また、ふるさと徳山に私設図書館「児玉文庫」を設立するなど、文化面の業績も顕著であり、郷土を大切にした人物でもあることから、先日、中央図書館の愛称を「児玉文庫メモリアル」と名付けるとともに、児玉源太郎と児玉文庫を紹介する常設展示コーナーを設けたところです。

この資料調査事業では、本市でこそ可能となる特色ある取組として、児玉源太郎に関する文献や資料の情報収集に取り組み、最終年度となる 31 年度は、調査内容を取りまとめつつ、市民が児玉源太郎について学ぶ際に役立つ報告書、及び子供用の学習資料作成をめざすこととしております。

報告書は、郷土の歴史及び児玉源太郎に関心を持つ市内・市外の方を対象として、市内外の「ゆかりの地」や史料紹介、史料を所蔵する機関の紹介、年譜と系図、エピソード集のほか参考資料の構成を計画しているところです。

なお、作成後は、市内図書館や小・中学校、国会図書館や協力自治体などに配布する予定です。

また、学習資料は、子供たちが、小学校 3 年生、4 年生の間に副読本で郷土の成り立ちやふるさとが育んだ人物を学んだ次の段階として、小学校高学年を対象として設定し、児玉源太郎の人となりを通して、自らの生き方を考える素材となるものとしたいと考えております。

いずれも市民の郷土学習に活かすことにより、ふるさとへの愛着を深めることにつなげていきたいと考えております。

続きまして、学校教育課の所管しております、事業番号 5 番「学校業務支援員配置事業」でございます。

当事業は、教員がその専門性を活かしつつ、子供たちに接する時間を十分確保し、真に必要な総合的な指導を継続的に行うことの出来る環境を創り出すとともに、学校における働き方改革を進めるため、授業準備や学級事務等の補助業務を行う学校業務支援員を配置する事業でございます。

今年度から開始した事業でありまして、現在、モデル校として小学校 8 校、

中学校4校、計12校に配置しております。

配置した学校では、印刷や集計などの業務を支援員に担っていただくことで、教員本来の役割である、児童生徒に向き合う時間や教材研究の時間などに費やす時間が増えた、会議の精選や効率化、教員自身の退庁時刻への意識化など、教員が自らのワークライフ・バランスを見直すようになってきた、などの多くの声があり、大きな成果が上がっております。

一方、教員の時間外業務時間の縮減という目標には、若干の削減は見られるものの、顕著には表れていない状況ではありますが、本事業の目的は、教員の時間外業務時間を、単に減らすことではないと思っております。

学校業務支援員の配置によって、教員が子どもたちに向き合う時間と、心の余裕が生まれることで、子ども一人ひとりの状況に応じた、きめ細かな支援ができるようになること、そして、教員自身のワークライフ・バランスの実現を図ることにあります。

31年度は、小学校15校、中学校10校、計25校に倍増して配置し、教職員の負担軽減を図り、子供たちの豊かな学びを支える教育環境の充実を図ることで、こうした教員の意識が、全市的に広まり、そして一層高まることを期待しております。

以上でございます。

続きまして、学校給食課所管分の重点施策、事業番号6「(仮称)西部地区学校給食センター建設事業」についてご説明いたします。

まず、「事業目的及び事業概要」の欄をご覧ください。

(仮称)西部地区学校給食センターの整備運営につきましては、築後35年以上が経過し老朽化が著しく、現行の「学校給食衛生管理基準」に適合していない、徳山西と新南陽学校給食センター、これら2つの施設を統合した代替施設を平成32年度の供用開始をめざして進めているところです。

また、整備運営にあたっては、設計、建設から維持管理、運営に至るまで、民間の資金とノウハウを活用する「PFI方式」で進めております。

「全体事業計画」は施設の建設に係るものでございまして、事業期間は平成28年度の敷地造成工事から始まり、平成31年度には新センター完成の予定であり、これらに係る概算事業費は15億8千79万1千円でございます。

平成30年度は、実施主体であるPFI事業者による基本設計、実施設計を基に、昨年12月には建設着工、そして、現在、建物の基礎となる杭打ち工事を進めているところでございます。

一番右の欄になりますが、「平成31年度実施事業の内容」につきましては、PFI事業者が新センターの建設を進めていくにあたり、設計内容どおり、適切に施工されているかどうかを確認するもので、コンサルタント業者に委託し、専門的な見地からの支援をいただきながら、モニタリングを実施して

まいります。

そして、来年1月には建設工事が完了する予定であり、その後、市に所有権が移転され、平成32年4月からの供用開始に向けて、開業準備を進めてまいります。

これら事業費の合計が、平成31年度予算額にあります、14億4千888万8千円で、その内訳は、モニタリングに係る委託料が526万円、所有権移転による公有財産購入費が14億4千362万8千円でございます。

なお、予定どおりに進みますと、本年6月頃からは、建物上屋が建ち上がっていく段階となり、今後、目に見える形で建設が進んでまいります。

来年4月の新センター供用開始をご期待いただければと存じます。

以上で、重点施策についての事務局からの説明を終わります。よろしくお願いいたします。

#### ●市長

ただいま、事務局から教育委員会における来年度の重点施策について説明がありました。

それではここから、こうした施策につきまして、皆様のご意見をお願いいたします。

#### ●池永委員

6つの事業の説明を聞きましたが、いずれにしても、いろいろな事業が県内の他市に比べて、全国的にも私は先進的な取組をされているのではないかと感じております。全てが児童生徒の安心安全につながるものだろうと思えますし、今後も細かい点まで気をつけられて、児童生徒の安心安全な環境を整えていただければと思っています。

話をしたいのが、4番の児玉源太郎の件です。これはこの前も、文化振興財団の時にも少しお話をさせていただいたのですが、児玉源太郎は意外と知られていないですね。徳山地域では結構知られていると思うのですが、新南陽、熊毛、鹿野地域ではあまり知名度が無いという感じを受けています。ですから、児玉源太郎をもっとということであれば、なおさら何か、教育委員会だけではなく、他の部署等とも一緒になってやっていく必要があるのではないかという思いを持っています。

児玉源太郎については、あまり比べたらおかしいですが、例えば、山口県ではほとんどの学校に吉田松陰の銅像がありますが、周南ではそういう銅像などが学校の中にはありません。児玉源太郎の資料を配っていただくことは、時々ありますが昨年10月に児玉源太郎展があり、その時に、美術博物館は資料を配られたのですが、これは単年度だけであって、全ての児童生徒に配布といったことには至っていないため、やはり、学校の中で本当に児玉源太

郎という名前を周南の偉人として取扱うのであれば、もっと何か方法があるのではないかと私は思っています。

●市長

それでは、ここで、児玉源太郎のことにに関して委員の方からご意見があれば、合わせて児玉源太郎にテーマを絞って進めましょう。

他の委員の方で、児玉源太郎に関して何かございますか。

会議資料には、平成31年度で調査報告書、子供用学習資料の作成という記載がありますが、これについてもどのようなものを作るかとか、それから先頃、池永委員から話を聞いた時に、ちょうど15年くらい前でしょうか、サマンサの小野さんが漫画を作られて、一冊400円くらいで販売されたと聞いていますが、実際は配っておられたんですが。そういうこともあって、漫画というのも作ってみられてはどうですかというお話もありました。

ですから、あわせてこれを受けて、事務局の方でどういう取組をするのかというのをもう一度詳しく説明をしていただけたらと思います。

●事務局

まず、出来上がる児玉源太郎の報告書でございます。こちらは、ページ数でいいますとA4で500ページ程度のものを考えています。これは先ほど申し上げましたが、郷土の歴史、児玉源太郎に関心をお持ちになられている市内外の方にむけて作成いたします。内容といたしましては、調査の報告、周南市と児玉源太郎のゆかりの地ですとか市内の史料や児玉文庫のことについて紹介します。それから、市外の児玉氏史料及び所蔵機関、それからゆかりの地について紹介します。それから児玉源太郎が歩んできた年譜、それから人間関係といえますか、関わった人々の系図のようなもの、そして足跡のマップ、新聞記事やエピソード集など、これは史料ですからそういった形で500ページ程度になろうかと思いますがこれを考えています。

そして、子供向けの学習資料でございますが、これは児玉源太郎の人となりをとおして、子供たちが自ら生き方を考えるということで、逆境に負けずに頑張ってきた先人を自分に置き換えた時に、自分にも様々な岐路があろうあかと思いますが、その時に1つの参考になるような話ということで、A4で8ページ、あるいは見開き4ページ程度のものをデータあるいは印刷で考えています。印刷といえますと限られますが、例えば最近であればタブレットがありますので、そこで見ていただけるような形も考えたいと思います。そうしまして、単年度に留まらずということですが、これは児玉源太郎という人物が歩んできたものを、今申し上げました小学校の6年生くらいから歴史を学んでいきますので、その時に、毎年できれば子供たちに学習してもらいたいなということで、こういった資料を用意いたします。以上でございます。

●市長

そうすると、市民向けといえますか一般向けには500ページくらいの報



告書、それから子供に対しては高学年を対象の8ページくらいの資料を今考えていると。これは印刷物として配るのか、それともデータとして子供に見てもらおうという考えということですかね。

委員の皆様の方から、この取組について何かご意見があればお願いします。

●片山委員

印刷物というのは大変いいことだと思います。大人の方はそれでいいと思いますが、子供には資料、データというのを提供するという話でしたが、子供の方は子供の方で「学ぶ」という、自分たちで調べたりとかできるようなものがあると、より深く子供たちもふるさとの偉人といいますか、そういう活躍をした人がいたのだということを知って、将来自分が大人になったときの活躍につながっていくこともあるのではないかと思います。これは学校の先生にお願いしないといけないかもしれないのですが、そういう時間を取っていただくことを提案したいと思います。

●事務局

資料で申し上げますと、先ほど申し上げました4枚程度、あるいは見開きのA4資料でまず児玉源太郎という人物を子供たちに知ってもらって、それから各学校に、先ほど500ページ程度と申し上げましたが、こういった資料も用意しますので、興味や学習意欲が出た場合は、少し字は小さいですが、そちらを見て子供たちに学習してもらおうという、使い方も考えられます。

●市長

漫画とかの計画は今のところありませんか。

県庁には、オレンジ色の本があります、10冊以上出ているのではないですかね。あの中では、例えば、まどみちおさんだとか、子供たちに地元の方たちが語ったり、子供たちがいろいろ研究したりということの数ページでカラーで、山口県の偉人を紹介しているという本なのですが、あんな感じになるのかなと思いつながりながら聞いてました。児玉源太郎は確かあの本では紹介されてなかったと思います。

●教育長

報告書はかなり専門的なものになってくるだろうと思いますが、一般の方も手直に読んでいただけるかということこれも中々難しいんだろうと思います。小学校の高学年をターゲットにしているというのは、非常に分かりやすいという意味で、中学生や大人の方が見ていただいても概要がわかっているということだと思います。先ほど話に出た、美術博物館が提供した単年度の資料ですが、これは、非常に上手く、明治維新というのを絡めてまとめてあり私も大好きです。

イメージとしては、あのようなもので作っていったら、そして調べ学習というところでは、専門書、報告書、このあたりがデータとしてあって、子供たちが持っているタブレットとかでも調べることができるというようなリンクをはるとか、そしてまた単年度ということでは先ほどのデータ化してという

こともありますし、それから小学校の3・4年生の子供たちは、小学校教育研修会が作っている社会科の副読本を持っていますが、教育委員会も予算的な支援をしながらあのような本の巻末に掲載して、それを毎年活用するとき高学年に見てもらえるものにするなどの工夫しながら考えていきたいと思っております。

●市長

私が小学校1年生のときに、親が「偉人伝」を買ってくれました。それは、世界の偉人の本当に断片的なところだけ紹介するというもので、例えばリンカーンだったら本を濡らしてしまったという話とか断片的なものを紹介し、最後にこんな人物でしたと終わるのですが、周南市内の子供たちにあの本のように、地元の岩崎想左衛門や高橋亀吉の話とか少しの情報であっても紹介するなど、やり方次第で小学校1年生の時からでも、お話をとおして何か伝えることはできないかなと思ったりします。

それから、せっかく周南市には徳山大学の学生が漫画を学んでいますし、それに大道理の漫画村にはプロめざしている、既にプロになった若者たちもいるので彼らを活用しながら進めていけば、何かおもしろものができるのかなと思ったりしました。

●大野委員

資料を作成して、配ったときはいいのですが、ホームページなどにアップしていただいていると継続的に残って、見たい人が見ることができるのではないかと思います。その辺りは何か考えていますか。

●事務局

子供向け学習資料の方は、ページ数が少ない分データ量も少ないでしょうからウェブページへの情報提供というのは可能だと思います。報告書の方は、写真も掲載されるためデータ量が大きくなることから、吟味して、抜粋を掲載するという必要もあります。

●市長

私は、市民の方がいつでも見られるように、データは電子の世界ですから、無限のデータが入るのではないかなと思っています。ぜひ、ネット社会にふさわしい取組にしてほしいです。

そういう意味では、いろんな情報を全部、周南市から発信できればいいなと思います。

児玉源太郎はこのくらいでいいですか。

それでは他に何かございますか。

●池永委員

5番目の学校業務支援員の関係ですが、人数を増やしていただいた点が良いと思えました。少しでも心に余裕が生まれるというのは確かにそうだろうと思います。次に、市外の学校で導入されたということを知っているのですが、決めた時間以外の電話対応を断るという取組です。大きな学校であれば

生徒指導等の電話対応が原因でほとんど仕事が中断してしまって、結果、夜遅くまで帰ることができないということが特に中学校では多いと思います。そうしたことを踏まえて、こういった新たな事業をすることで、学校の業務の終業時間を明らかにするといったような取組はできないかなという希望を述べました。

●教育長

現在、県立学校が今年から取り入れてやろうとしています。その辺も見ていくのですが、19時以降は、緊急以外は学校へ電話をするのは控えて翌日にしていただくというように、教育委員会としても保護者の方に啓発していくといった側面も大事かなと思っております。

●市長

17時以降に電話をかけてもつながらないとう会社も最近はありますね。

●教育長

ただ、学校現場が、それになじむかといいますと難しいところがあります。保護者の方が自宅に戻られるのが18時、19時という時間帯で、そこから電話されるという実態もありますので、ある日突然、全てオフリミットというよりは、少し段階的に啓発もしながらということになると思うのですが、いかがでしょうか。

●市長

民間の場合は、留守番電話にしておいて、留守番電話に録音される内容でとらえないの判断をしているということもあるようです。学校現場でそれができるかどうかというのはわかりませんが。

●教育長

また経費のこともありますので研究してまいりたいと思います。

●池永委員

数年前に、新任の女性の先生だったと思うのですが、夜中まで保護者が毎日のように電話をかけてきて、結局、彼女は病気になって退職に追い込まれました。学校として対応が全くできなかったようで、こうしたケースは結構多いです。スクールロイヤーの話も今後は出てくるだろうと思いますけど。学校業務をいろいろと支援する制度を作っていただいて、次の手をまた何か考えていただければいいのではないかと思います。

●市長

それでは他にありますか。

●大野委員

子供が小学校に通ってしまっていて、今年、1人が中学校、もう1人が小学校にあがり、3人がお世話になります。空調ですが、ここ最近は暑い夏や寒い冬があり、非常に心配していましたが、県下に先駆けて空調設備を導入するという決断をしていただいて、親として非常に喜んでおります。

2つほど質問をさせていただきたいのですが、小学校はPFI方式で導入す

ると先ほどご説明がありましたが、給食センターが先駆けてPFI方式で事業を進められているということで、その導入にあたっての課題などが無かったのかということが1つ、もう1つは子供たちの環境というのは後追いでやるよりも先に良いもので囲まれるような状態になればと思っているのですが、校舎の老朽化ということが各学校見ていて非常に気になっています。これらは重点課題だと思っておりますが、そのあたりの対策などがこれからどのようになるのかというものがあればお伺いできればと思っております。

#### ●事務局

「PFI事業導入にあたっての課題について」、「今後の老朽化対策について」ということで、2点お伺いしました。

PFI事業というのは、先ほどご説明したとおり、まさに早期に、一括して、一気に施工できるということがメリットでありますし、加えて、国の補助金が活用できるというところがございます。現在、PFI事業で小学校の空調設備の整備ができないかというところを、業務を発注して進めているところがございます。

大きな課題といたしましては、スケールメリットは出るものの、実際に、先ほど申しましたように、通常の施工で行った場合と一括して行った場合のコスト面の比較があります。果たして有利なものになるのかということが課題の1つです。それから、実際にこれだけのボリュームの工事を発注するにあたって受けてくださる事業者の方がいるのかということも課題の1つであります。そのためにも、先ほどご説明いたしましたPFI事業で導入するための可能性の調査、この部分を含めて、現在調査をさせていただいております。4月中にはその結論が出るのではないかと考えております。

いずれにしても、その結果をもって次のステップへということになりますけれども、大きくはその2点が現時点では課題といえますか、克服すべき点であると捉えています。

老朽化対策でございますが、これも先ほど説明いたしましたとおり、来年度、学校施設等長寿命化計画を策定することとしております。原則200㎡を超える建物等については、それぞれの棟ごとに外壁の状態であるとかコンクリートの劣化状況、またその強度等、全て現場に赴いて調査をして、建物ごとにどのような改修が必要なのか、施設を長寿命化させるためにはどのような改修方法がいいのか、どの時期にやるべきなのか、どれだけの事業費がかかるのか、そういったことを各棟ごとに全て調査させていただくのが、このたびの長寿命化計画の策定業務になります。それが出来上がった段階で、実際に改修計画をどのように進めていくのかということになってまいりました。古くなった建物もこういう形で改修を進めていけば延命するという改修計画を最終的には作るようになります。それに基づいて、その改修計画にかかる事業費等をそれぞれの年度で予算を確保して進めていくという流れになります。

確かに、現場で建物を確認した段階で、例えば、長寿命化するための改修計画というよりも、やはり建て替えるべきだと判断する建物も出てくるかもしれません。それも含めて、全ての調査を行って、計画を立てていくというところで、まずは32年度からのスタートラインに立つための計画を31年度に策定するということになります。

●教育長

そう言いながら、日々、手直しが必要な箇所であったり、トイレの洋式化を進めるということもありますので、2番で見ていただいたように、今年、概算事業費として、約10億円規模の非常に大きな予算をいただいて、右側にありますような様々な老朽対策について予算化していただいていますので、そちらで対応しながら、長期的な老朽化対策というのも計画をしていくという、2段階でやってまいりたいと思っております。

●市長

よろしいでしょうか。他にこの項目についてご意見はありませんか。

本日いただきました、様々な視点からのご意見を十分に斟酌<sup>しんしやく</sup>させていただき、今後も、一層実効性のある事業進展に、取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

2	『地域と“共に”ある学校』づくりの取組について
---	-------------------------

●市長

それでは、次の協議事項に移ります。

次第(2)番「『地域と“共に”ある学校』づくりの取組について」であります。

事務局から、まずは、説明をお願いします。

●事務局

1. 周南市のコミュニティ・スクールについて
------------------------

それでは、お手元にお配りしている資料に沿って説明いたします。

資料の1枚目をご覧ください。

まず、周南市のコミュニティ・スクールについてです。

情報化、少子高齢化、核家族化など子供たちを取りまく生活環境、教育環境が激しく変化しており、児童虐待、子供たちの規範意識や社会性、いじめや不登校など、子供たちに関する問題も複雑で深刻なものとなっています。

このような背景において、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには学校、家庭、地域がそれぞれ単独で子育てをするのではなく、三者が一体となった社会総がかりでの教育が不可欠となります。これを実現する仕組みがコミュニティ・スクールです。

周南市においては、平成24年に市内すべての小中学校をコミュニティ・スクールに指定しました。学校と地域がつながる機運が徐々に高まり、地域

の子供たちのために特色を生かした様々な取組がなされてきました。

現在の周南市のコミュニティ・スクールの取組については、学校と地域の横のつながり、小学校と中学校の縦のつながりを紡ぎ合わせることで、学校と地域が一体となって9年間の義務教育を通して子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を目指しており、「学校運営協議会会長会議」「統括コーディネーター、地域連携担当教員等合同研修会」「地域とともにある学校づくり推進協議会」などを開催し、人材育成や地域のネットワークづくりに努めているところです。

このことにより、子供たちの成長や学校の課題改善、地域の活性化を図り、将来の地域の担い手となる人材の育成につながる子供たちの「ふるさとを愛する心」を育てています。

## 2. コミュニティ・スクールの具体的な取組

では、次にコミュニティ・スクールの仕組みを生かした具体的な取組について説明します。

まず、小学校ですが、資料の2枚目をご覧ください。

今宿小学校や菊川小学校では、敬老会での会場案内や会場の片づけをしたり、「菊川ソーラン節」を披露したりして地域の高齢者を楽しませ、元気を与えました。

夜市小学校では、地域の祭りへの出演や手伝いに多くの児童が参加しています。

戸田小学校では、4年生以上の有志で少年消防クラブを結成し、地区消防団指導のもと、地域ぐるみの活動をしています。

岐山小学校では、道徳の授業に地域の方が参加し、郷土を大切にすることを育てています。

秋月小学校では、中学生とともに、地域の清掃活動に参加し、地域への感謝の気持ちを伝えました。

このように、小学校では、地域の方々の学校支援や様々な活動により、豊かな体験や深い学びが実現してきています。子供たちは地域の方々とのふれあいを通して地域のよさや温かさを感じながら成長しています。

次に、中学校ですが、資料の2枚目をご覧ください。

鹿野中学校では、地域清掃活動のボランティア活動に参加し、小学生をリードしながら地域のために力を発揮しました。

菊川中学校では、地域の祭りの企画・運営・司会進行・小さい子供たちが楽しめるブースの設営などを毎年行っています。

資料の3枚目をご覧ください。

須々万中学校では、小・中・高校生、地域住民を対象に人権教育講演会を実施し、地域をあげて子供たちの豊かな心を育成しています。

富田中学校では、小中合同のあいさつの日を設定し、中学生が中心となって小学生や地域の方々へあいさつをし、あいさつの活性化を図っています。

和田中学校では、地域防災訓練で、中学生が独居老人の自宅を訪れ、手を引いて避難場所に避難するなど、地域の一員としての役割を果たしています。

熊毛中学校では、多くの生徒が地域行事に参加し、ボランティアとして地域の方と一緒に活動することで、郷土のよさにふれています。

中学生がボランティア活動や地域行事に参画し、地域の一員として地域に貢献する姿が数多く見られるようになりました。地域の中での役割を果たすことで、自己肯定感が高められるとともに地域の担い手意識が育まれています。

資料の3枚目の右をご覧ください。

地域の方々の積極的な支援による学力向上についての取組や伝統文化を継承する取組を通じて、学校の教育活動が充実し、子供たちが未来の社会に生きるために必要な力をつけることができます。

具体的な例としては、写真を掲載しているとおり、中学校における放課後の学習会でのサポートや小学校におけるかけ算九九の確認、絵本の読み聞かせ、授業のサポートなどがあげられます。

また、伝統文化の継承においては、伝統芸能を引き継ぐだけでなく、地域の思いを受け継ぎ、教えていただいた成果を様々な場面で発表し、地域の方々に感謝の気持ちを伝えることができます。

### 3. コミュニティ・スクールの成果と課題

続きまして、周南市のコミュニティ・スクールの成果と課題についてです。

資料1枚目の右側をご覧ください。

コミュニティ・スクールの成果としては、子供たちにとっては、「学びや体験活動が充実したこと」、「自己肯定感や思いやりの心が育ったこと」、「安心・安全に生活できる環境となったこと」、学校や教職員にとっては、「地域資源や人材を活用し、教育活動が充実したこと」、「子供と向き合う時間が増え、子供のよい面を発見できたこと」、地域住民にとっては、「学校等に集まる機会が増え、住民間のつながりを深めることができたこと」、「地域住民にとって、技術や経験を発揮する機会が増え、やりがいや自己有用感を得たこと」などがあげられます。

一方で、「コミュニティ・スクールを多くの住民に浸透させ、協力を得ること」、「取組を充実させるための予算・時間を確保すること」、「打ち合わせや子供の引率による業務量の増加」なども課題もあがっています。

次に各学校から寄せられたコミュニティ・スクールへの子供の声・教職員の声・地域の声の中からいくつかを紹介しますと、子供の声としては、「地域の方がよくほめてくれるのでうれしい。」、「地域の方のおかげで、新しいことがわかった。」、教職員の声としては、「自信をもつ子、あこがれの気持ちをも

つ子が増えた。」、「環境整備では大いに助けられ、感謝している。」、地域の声としては、「回数を重ねることで子供と顔見知りになり、うれしい。」、「あいさつはもう少し元気な声で。一緒に地域を盛り上げたい。」などがありました。

#### 4. 周南市のコミュニティ・スクールがめざすもの

周南市では、今後も学校と地域が育てたい子供像を共有し、学校や地域の特色や強みを生かした「学校づくり」に向けて主体性のある取組を実践することで、地域の絆を深めていくとともに、子供たちの「ふるさとを愛する心」を育み、地域の担い手としての人材を育成したいと考えています。

以上でございます。

##### ●市長

総合的な取組についての説明でございました。

それでは、教育長には、改めまして、教育的視点から、補足説明いただければと思いますがいかがでしょうか。

##### ●教育長

今議会の市長の施政方針の中でもふれられ、田村隆嘉議員からも、本市のコミュニティ・スクールの取組状況はどうかというお尋ねがありました。その質問に対して、市長は、就任以来、市内いろいろな地域で小中学生が地域の人たちと一緒に活動している、そうした場面に接することが非常に多くなってきた、彼らの目が輝いてきていて、こうした子供たちが夢と希望を描ける社会を実現していくそのことが私の使命だという趣旨でお答えになったと思います。

この後、教育長が答えると振られました、私はその時に、こんなことを話しました。

先年、和田の子供たちに、みんなが憧れるのはどんな人ですかと聞いたところ、彼らが異口同音に語るのは、三作神楽を舞う青年たちのことなのです。先ほど写真がございました、熊毛の周南こども夢まつりで、お世話される地域の方が、熊毛中から引率してくる教員に対して、「先生、もう引率せんでいいよ。私らに任せんさい。うちの子じゃけ。」と言われたそうです。このことについて、私の中では非常に強い言葉として心に残っています。

先ほども見ていただきましたが、多くの子供たちが地域に出かけて行って、伝統文化や地域行事に参画をしています。まずは、地域を知ることから始まるのだろうということをいつも言っています。そして、その活動の中で多くの地域の人と交流していきます。知る、交流する。交流していきますと、それを通して子供たちは大人、地域を大切に思い、伝統文化もまさにそうですが、地域づくりに携わってる大人たちに対して、「あんな人になりたい」、「あんな生き方をしてみたい」といった「憧れる」という気持ちが生まれてきます。



先ほども子供の声としてその声が1つあがっていました。この「地域の人に憧れる」ということ無しに、地域に誇りと愛着を持って地域づくりに貢献する人材を育てようということは無いと、自分の中で思っています。人に憧れるということが地域を思う第一歩だろうとっております。

地域行事で、敬老会で、嬉々として伝統文化を舞う、地域の野菜を売る、小さな子供の手を引いて、高齢者の方のお世話をし、中には司会進行もやる、企画会議に出て自分の思いを語る、子供たちですから確かに、稚拙でたどたどしい面があります。しかし、任せると彼らは何でもやります。アドバイスしてやれば毎年毎年、力を大きく発揮していきます。それは、学校では中々見ることでできない彼らの力という側面でもあろうと思えます。パワーと可能性を秘めています。

私は本来、地域の子は地域で育てるというコミュニティ・スクールがめざす、あるべき地域の姿だと思っておりますけれども、そこに周南市は、大きくしかも確かに変わってきています。さらに、新しいコミュニティを創造する担い手となる力も見せ始めている県内でも最も進んだ地域の1つだと思えます。

以上のように私はお答えさせていただきました。

この2年あまり、私はコミュニティ・スクールについては、まず3つの機能である「学校運営」、「学校支援」、「地域貢献」はもとより、次の時代の彼らが生まれ育った地域の担い手となる子供たちの人材の育成、ひいては周南市を支える人材として彼らがどう育つか、そのことが重要だということをいろいろなところで繰り返し繰り返し言い続けています。

要は子供たちを地域総ぐるみで育むための基盤がある。その基盤というのは「共に支え合い、共に助け合う、温かい地域の絆」というものがある、いわゆる新しい地域コミュニティを創造するその重要性、そして、その地域を支える担い手となる人材育成。これは外せないだろうと思えます。

よくよく考えますと、この考えはまさに、市長が常に言ってこられた“共に”のまちづくり、そのことと全く同じ意味合いだろうと私は受け止めています。

周南市のコミュニティ・スクールは7年を経ました。「地域とともにある学校づくり」という側面でコミュニティ・スクールを捉えてきたわけですが、さらにこれからは、それに加えて、「学校を核とした地域づくり」、「学校づくり」と「地域づくり」を一体のものとして、今、私たちは新たなコミュニティ・スクールの段階に入ってきているのではないかと考えております。

確かに社会を変え、学校を変え、地域を変えていく、これは至難の業です。10年や20年でできることではありません。そのこともよくわかっています。しかし、今、私たちが遅々とした歩みではありますが、進めている取組というのは、確実に、周南市の子供たちは地域の中で、地域の人に支えられながら育ってきている、このことは間違いありません。これを30年、40

年、続けた先に、私は、社会、地域、学校、家庭にこの変革というのが大きく表れてくるのだろうとっております。

もう1つ、冒頭に、市長から高校生の自殺の事案についてふれられました。その中で、「家庭や学校だけの問題として捉えずに、地域全体の課題として捉える」という言葉が印象深く頭に残っています。子供の場合、人間関係というのを考えますと家庭と学校があ中心で、いわば「閉ざされた社会」の中で生きているのが子供です。

ですから、その中でいじめという問題が起きますと、大人とは比較にならない大きなストレスが生じます。そして、その狭い社会から逃げ出すということもほぼ不可能な状況にあります。スマホの時代の子供たち、よく人間関係が希薄だというふうに言われますが、私はむしろ逆だと思います。今の子供たちは、24時間、メールやラインでつながり続けています。要は、私たちがかつて経験したことのない、しかも、濃密な人間関係の中で疲れ切っているという子供の姿があります。むしろ、脅迫観念に近い人間関係を強いられているとまで言っても過言ではないかもしれません。そんな時に子供たちが、学校中心とした閉ざされた世界から地域の人と関わってくという、少し広い世界の中で、地域の人から認められ、声をかけられ、よくやったねと大切にされ、そうした大人に憧れ感を持ちながら、子供が自分の存在意義というものを学校以外のところにも見出すことができれば、もしかしたら、あの青年は。もしかしたら、と思うところもあります。

いじめ問題1つをとっても、やはりコミュニティ・スクールの取組、私はこれから教育委員会として、あるいは教育の現場の中で、非常に大きな意義がある取組だと思いますので、引き続き、これについては、50年というスパンぐらいのつもりで、継続して取り組んでいくものだろうとっております。以上でございます。

●市長

ありがとうございます。

限られた時間ではありますが、ここからは、「地域と“共に”ある学校」づくりを進めるにあたり、皆さんが日頃から考えていらっしゃることや率直なご意見、感想などをお聞かせいただきたいと思います。

●大野委員

実際にコミュニティ・スクールに携わらせていただいております、特に中学校で生徒と話をする時間というのを持つことがあります。話をしていると、「もっとまちのために何かしたい」、「地域のために何かしたい」という気持ちがすごくあるのですが、どう関わってよいかわからないようです。

その時に、コミュニティ・スクールの話し合いをとおして、地域の人とつながって、そこからまたまちの方に出ていくという流れが出来始めています。教育長が言われるように、40年、50年続けていくうちに、そういった子供たちがいろいろとまちの中で経験をして、次代のまちを担うような人材に

なってくれるのではないかと切に感じています。

ただやはり、現場にいていつも思うのは、場をどう作っていくか。どのように学校と地域をつないでいったらいいのかというのが中々上手くマッチングができないときというのがありますので、そういった時に上手くマッチングができるような場というのがもう少しサポート的にできていると活動が加速するのではないかと考えています。

●市長

ありがとうございます。とりあえず、皆様のご意見をお伺いして、そのご意見を受けてから論議していきたいと思えます。

●池永委員

昨日たまたまEテレを見ていましたら、和田の三作神楽がNHKホールで舞われていました。

たくさんの拍手があり、子供の人数は少ないけれど、地域が非常にまとまって活動しているんだなと感じました。

先ほど教育長が言われた子供が憧れるというのはまさにそうだろうと思いました。人数は少ないけど和田は非常に盛りあがっている、そういう意味ではコミュニティ・スクールが機能しているのではないかなと考えています。

個人的なことです。私は、15年くらい前から、10回程、今宿地区の敬老会にバンドの出演を10回くらいしました。最初の頃は、吹奏楽の部活が出演していたくらいで、お手伝いとしての中学生は来ていませんでした。2回目か3回目くらいに行ったときに、中学生が受付などのお手伝いを始めました。当時、住吉中学校はあまり評判がよくなかったのですが、それ以降は、住吉中学校や、その子供たちの雰囲気が変わったと聞いたことがあります。

おそらく、皆さんはご存じではないかと思うのですが、やはり、今、話がありましたように、地域の人と子供たちがボランティアをとおしてふれあい、会話が生まれ、子供たちも認められたのでしょ。そうすることで、住吉中の子供たちがいきいきとして、以後は良い雰囲気を感じます。そのことが伝わったのだらうと思うのですが、その次の年あたりから、富田中学校の子供たちが敬老会でボランティアをやるとか、市内のいろいろな中学校でも子供たちがボランティアとして参加するようになしました。コミュニティ・スクールが始まる前から、周南市ではそのような活動が活発に行われていたと私は思っています。

ですから、いろいろな面で周南市は、そういう先駆けをしているところだと思いますし、それが今、かなり充実してきていると考えています。

ぜひ、そういう面でも、それぞれの中学校区、小学校も含めて、コミュニティ・スクールが機能しているということは誇ってもよいのではないかと私は思っています。

●市長

松田委員さん、熊毛地区の取組を紹介していただけないでしょうか。

●松田委員

熊毛地区では、先ほどの説明でもありましたように、中学生のボランティアと活動をされているのですが、私が感じるのは、コミュニティ・スクールが上手くいっている地域とそうでない地域がやはりあるのではないかということです。地域の基盤ということをおっしゃっていましたが、個人として思うのは、地域がきちん機能している地域では、コミュニティ・スクールは上手く運営されていると思うのですが、地域そのものがあまり上手くいっていない地域というのは、コミュニティ・スクールも学校側も悩んでいるのではないかと時々感じることがあります。

ですから、やはり地域と学校と一口に言ってしまうとそれまでなのですが、地域が地域としてきちんと基盤ができていて、学校は学校として地域に何が問題なのかということを中心に伝えられる、そういう地域が出来ているところはいいのですが、出来ていないところはその辺も少し力を入れていけたらいいのではないかと考えています。

それと、先ほど教育長から、自分の存在が地域の中で認められるというのが子供にとってとても大切だとおっしゃられましたが、一住民としてできることは何かと考えた時に、まずは自分の地域の子供たちの名前を覚えてあげるといこと、そして「元気かね」と名前に加えて少し声掛けをしてあげる、そういう日々の積み重ねも私たち一住民ができることではないかと感じています。以上です。

●市長

ありがとうございます。それでは片山委員お願いします。

※ここで、大野委員は所用により退席

●片山委員

皆さんからのご意見と大体一緒ではありますが、学校訪問をさせていただいている時に、学校によってはこのコミュニティ・スクールの取組について、実例や上手くいっていること課題も含めて紹介をいただくことがあります。松田委員が言われたように、とても地域性があるのではないかと思います。その地域がどうなっているというのではなくて、歴史的なもの、例えば、先ほど児玉源太郎の話がありましたが、徳山には児玉源太郎が、鹿野には岩崎想左衛門があり、おみくじを作った宮本重胤しげむねがありとか、その地域に生まれ育って何かを起こしたという人も、コミュニティ・スクールの関係の中に取り込んだり、それこそ、学校を核にそのようにやっている地域は、地域力というのがついているのではないかと思います。

今からは、自分たちで何かをやっていこうという時に、学校、家庭、地域

を含めたコミュニティ・スクールの存在といいますか、どのように取り組んでいくかということによって地域差が出てくるのではないかと思います。私もコミュニティ・スクールに最初に取り組んだ時に、学校の先生と少し温度差があったことがありましたが、今は、どこの地域の学校を訪問しても、学校の先生がこのコミュニティ・スクールに取り組もうとする意欲がすごく感じられます。後は、地域の人たちをどのようにして学校に取り込むとか、どのように仕組みができていくのかによって、これがよりいいものになっていくと思います。

引いていえば、先から出ている学校の先生の仕事の改革にもつながる、地域力を生かしてそういうことにもつながるということで、学校も地域もよくなるわけで、コミュニティ・スクールは子供たちの力を引き出す大切な事業だとどこの地域にいても強く思います。

#### ●市長

ありがとうございます。皆さま方から一通りご意見をいただきまして、教育長のメッセージも受け止めました。他に委員が言われたことについて、もう少し話したいということがあれば伺いますが、よろしいでしょうか。

コミュニティ・スクール、素晴らしい取組を周南市の教育行政はやっているなと思いますし、先ほどから話が出ておりますように、実は子供たちも育てられていると思います。地域の方に対する子供たちの影響力というのはすごく感じています。子供たちと触れ合うことで、地域の方も逆に、子供たちからも学んでおられるのではないかと思います。私も地域に入ってコミュニティ・スクールを見ております。

「共に」の心を大切にしながら、まちづくりをすすめています。まさに、未来（あす）を拓く教育、地域に根差し、信頼と期待に応える教育環境の充実を、皆さんと「共に」の心で、これからも英知を結集し、推進してまいりたいと考えております。

まちづくりというのは「連帯する力」は欠かせません。

ただいま御意見を伺いましたコミュニティ・スクールを核とした「地域と“共に”ある学校」は、まさに私のめざす「共に」の心で、たくさんの団体・グループ、たくさんの方々が「連帯」し、課題を解決しよう、活性化させていこうという取組であります。

私も、市長に就任以来、多くの地区で、多くの小学生、中学生が、地域の人たちといっしょになって活動をしている場面を、本当によく目にしてきました。子供たちは、やらされているというのではなく、生き生きと活動している、これが本当にすごいと思います。自主的・主体的にいろいろ行事で、司会をやったりと本当に彼らが運営していて、それを地域の方が上手く支えていただいているなと思います。

子供たちは宝物でございますので、一人ひとりが未来に向けて、夢と希望を描ける社会を実現することは、私に課せられた使命であると、改めて強く

胸に刻んだところであります。

先程の教育長の発言にもありましたが、このコミュニティ・スクールの活動を推進することが、直接的にも、間接的にも、いじめ問題の解消にもつながるとおっしゃっていただきました。これからも、関係団体等が連携を密に取りながら、まさに地域全体で子供を育てることが重要と考えております。

今後も力を入れて進めてまいりたいと思います。

その他、ご意見等ございませんでしょうか。

#### ●市長

本日は、活発な意見交換で、議論を深めることができました。

子どもたちへの投資は、未来の投資です。今後も、誰もが安心して子どもを生き育てられる環境づくりへの挑戦を、英知を結集して進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、時間になりましたので、本日の総合教育会議を終了させていただきます。

今後も、本市の教育の更なる充実・発展に向け、皆さまのご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、貴重なご意見やご提言をいただき、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、事務局の方に戻します。

#### ●事務局

本日は、長時間にわたり、真摯なご協議をいただきありがとうございました。

以上をもちまして「第9回（平成30年度第2回）周南市総合教育会議」を閉会といたします。

本日は、どうもありがとうございました。